



令和 5 年 1 月 17 日

南陽市議会議長 船山利美 殿

会派 無会派

梅川 信治

令和 4 年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第 4 条の規定により報告いたします。

項目	調査・研修内容
調査期日	令和 5 年 1 月 15 日(日)から 18 日(水)まで 3 泊 4 日
調査場所	① 島根県雲南市議会 ② 島根県大田市議会
調査目的	① 地域自主組織による小規模多機能自治の取組について ② 「住みたい田舎日本一！」に輝いた大田市の現在の移住・定住推進の取り組みについて
調査概要	① 別紙のとおり ②
その他	

会派先進地視察報告書

無会派 梅川信治

視察地：島根県 雲南市（令和5年1月16日）/
島根県 大田市（令和5年1月17日）

1、雲南市

（1）概要

雲南市は平成の大合併で誕生した比較的新しい市であり、島根県東部の中山間地域に市街地が分散していた。

また雲南市はヤマタノオロチ退治を中心とした出雲神話の舞台であるとともに、国宝に指定された銅鐸やたたら製鉄など地域特有の文化を持つ歴史のある都市だった。

（2）視察内容

地域自主組織による小規模多機能自治の取組について

（3）所感

雲南市は合併により誕生し、中山間地域に都市部が分散しているという市の形態のため、コンパクトシティ的な政策をとらずに逆の発想で、地域ごとに独自の発想を持ち課題に取り組んでいた。

中山間部での人口減少は全国的な問題であるが、コミュニティ単位に独自の予算を持ちきめ細やかな施策を展開する雲南方式が今後どのような成果をあげるか非常に興味深いと感じた。

2、大田市

（1）概要

大田市（おおだし）は、島根県の中中部にある市で、日本海におよび中国山脈に接しており、市内には世界遺産に登録される石見銀山を有している。

石見銀山は世界遺産登録後に観光資源として整備がなされたが、現在はコロナ禍以降の観光客減少から脱却途上であり、視察時は平日だったこともあったことから閑散とした状況だった。

（2）視察内容

「住みたい田舎日本一！」に輝いた大田市の現在の移住・定住推進の取り組みについて

（3）所感

大田市が「住みたい田舎日本一！」に輝いてから数年が経過し、その後の人口の推移に興味があったが、人口減少と高齢化の問題は現在も続いており、必ずしも成果があったとは言い難い状況だった。

その一方、大田市では移住定住を専門的に扱う部門が独立して設置され移住定住希望者の利便性を高めており、本市でも同様の取り組みが必要と考えさせられた。